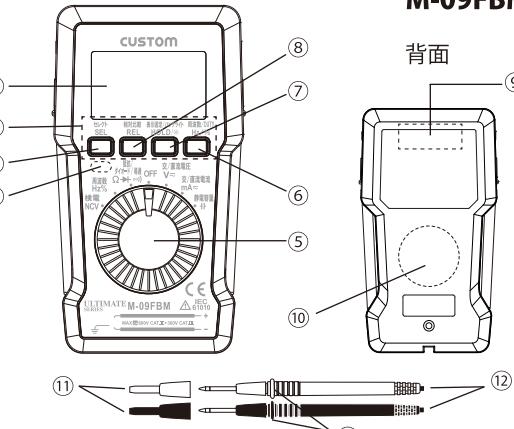


4. 各部の名称



- ① 液晶表示部
② モード切換ボタン
③ セレクトボタン (SEL)
④ LED (検電/導通チェック用)
⑤ ファンクションダイヤル
⑥ 周波数/DUTYボタン (Hz%)
⑦ 表示固定//バックライトボタン (HOLD/*)
⑧ 相対比較ボタン (REL)
⑨ 非接触検電部 (内蔵)
⑩ 磁石 (内蔵)
⑪ ブローブカバー
⑫ テストリード
⑬ テストリードのバリア部

5. 測定を始める前に

5-1. 測定前の準備

- 開梱したら、すぐにキズや変色などの外観上の異常や付属品に欠品がないか等を確認してください。
万一、不具合がありましたら購入された販売店までご連絡ください。
- 測定中にファンクションダイヤルの切り替えを行う場合は、必ずテス
- トリードを回路から外してください。
- 周囲にノイズを発生する装置があったり、急激な温度変化がある場所で使用すると、表示が不安定になったり、誤差が大きくなる場合がありますので注意ください。
- 抵抗、導通、ダイオード、静電容量の測定は、被測定回路に電流が流れている時に測定すると正しく測定できませんので注意ください。
- 本器を使用中に、外部の強力なノイズ等により表示に異常が発生するなど、測定ができなくなった場合には、一旦電源を切りしばらくしてから電源を入れ直してください。

備考)

テス

6. 測定方法

6-1. 測定の手順

- 右の表で、測定する内容を確認します。
- 測定する項目に合わせて、ファンクションダイヤルの位置を合わせます。
- 測定する項目に合わせて、モードを切り替えます。
- 測定終了後は、ファンクションダイヤルを OFF の位置に合わせて電源を切ります。

⚠ 警告

- 測定する項目とファンクションの位置を間違えないこと。
- 各ファンクションの最大定格値を超えた入力を加えないこと。
- 測定中はファンクションやモードを切り換えないこと。
- 測定中はテス

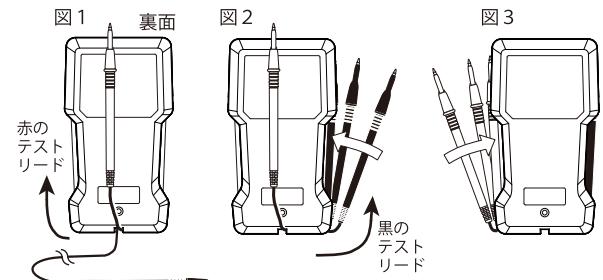
測定項目	ファンクションダイヤルとモード切換えボタンの位置	画面表示例	接続例	使い方、注意事項
交流電圧	交 / 直流電圧 (V~) / ACV/DCV 自動判別	AUTO AC 1028 V	接続例1: プラグ接続	※テス
		AUTO DC 1500 V	接続例2: テス	トリードの赤・黒は特に関係ありません。 ※交流電圧の測定可能な周波数は 40~400Hz です。 ※インバーター回路などの特殊な波形では、正常な測定ができない場合があります。
直流電圧	ACV/DCV 自動判別	AUTO AC 2017 mA	接続例1: テス	被測定物の十側に赤テス
		AUTO DC 2017 mA	接続例2: テス	トリードを接続します。 ※逆の場合は、“-”マイナスが表示されます。
交流電流	ACV/DCV 自動判別	AUTO AC 2017 mA	接続例1: テス	セレクトボタンを押して、交流か直流かに切り替えます。 電流の流れに対し直列に本器を接続する必要があります。
		AUTO DC 2017 mA	接続例2: テス	※直流測定の場合、赤テス
抵抗	抵抗 / ダイオード / 導通 (Ω → ●)	AUTO 1000 Ω	接続例1: テス	トリードから黒テス
		* 0632 V	接続例2: テス	トリードを電源に接続します。 ※逆の場合は、“-”マイナスが表示されます。
ダイオード テスト	ACV/DCV 自動判別	* 0632 V	接続例1: テス	順方向測定は、赤リードをダイオードのアノード側に、黒リードをカソード側に接続します。 逆方向測定は、その逆に接続します。
		0002 Ω	接続例2: テス	※順方向を測定した際に、正常なダイオードであれば 0.4 ~ 0.7V 程度の値を示します。また、逆方向ではオーバーレンジ (OL) になります。
導通 チェック	SEL ボタンで切り替え → Ω → → → ●	0002 Ω	接続例1: テス	被測定物が導通しているれば、ブザーが鳴り LED が点灯します。
		0002 Ω	接続例2: テス	※テスの赤・黒は特に関係ありません。 ※導通の目安 (ブザーの鳴動と LED 点灯) は約 50Ω 以下です。
静電容量	静電容量 (μF)	AUTO 1000 μF	接続例1: テス	※テスの赤・黒は特に関係ありません。 ※測定範囲は 10nF 以上です。
		0000	接続例2: テス	※静電容量が大きくなると、測定時間が長くなります。
非接触検電	検電 (NCV)	AC 0000	接続例1: テス	本体上部の裏をチェック対象物に近づけます。 センサーは本体上部の裏側に内蔵されています。
		0000	接続例2: テス	交流電圧が確認できると、ブザーと LED でお知らせします。 ※テスを本体から外して測定してください。 巻いた状態では、検電感度が低下します。
周波数	周波数 (Hz%)	5000 Hz	接続例1: テス	※本機能は目安であり、正確な電圧を測定する場合は本器の交流電圧 (ACV) 測定機能をご使用ください。
		0500 %	接続例2: テス	周波数 / DUTY(Hz%) ボタンを押すたびに、周波数 (Hz) ⇌ デューティ (%) の表示が交互に切替わります。
DUTY (デューティ)	表示固定 / パックライト (HOLD/*)	5000 Hz	接続例1: テス	※交流電圧や交流電流の測定モードでも使用できますが、そのモードでの測定範囲は 40Hz ~ 400Hz です。
		0500 %	接続例2: テス	各測定モード中に表示固定 / パックライト (HOLD/*) ボタンを押します。 ボタンを押すと測定表示が固定され、もう一度押すと固定が解除されます。 2 秒以上の長押しで、パックライトの ON/OFF ができます。
パックライト	表示固定 / パックライト (HOLD/*)	1028 V	接続例1: テス	※パックライトを多用すると電池の消耗が早くなります。
		0000 Ω	接続例2: テス	相対比較 (REL) を押すと、その時点の値を基準 (0) として、その後の入力値との差分が表示されます。
相対比較 (リラティブ)	相対比較 (REL)	0000 Ω	接続例1: テス	※この機能は、抵抗と静電容量の測定モードでのみ使用できます。
		0000 Ω	接続例2: テス	※抵抗モード時は測定レンジが固定されますので、REL 機能を使用した後は、一度電源を OFF にしてください。

6-2. オートパワーオフ機能

電源の切り忘れによる電池の消耗を防ぐ機能です。
無操作の状態が約30分間継続されるとオートパワーオフ機能により電源が自動的に切れます。
尚、オートパワーオフ機能を無効にするには、セレクト (SEL) ボタンを押しながら、ファンクションダイヤルを OFF から測定位置に回します。

6-3. テスの巻き方

- 赤のテスを、時計方向に 2 回転しっかりと巻き付けます。(図 1)
その後、一時的に赤のテス棒を本体裏側に置いておきます。
- 黒のテスを、反時計方向に 2 回転しっかりと巻き付けます。
その後、黒のテス棒を本体横にはめ込みます。(図 2)
- 赤のテス棒を、本体横にはめ込みます。(図 3)

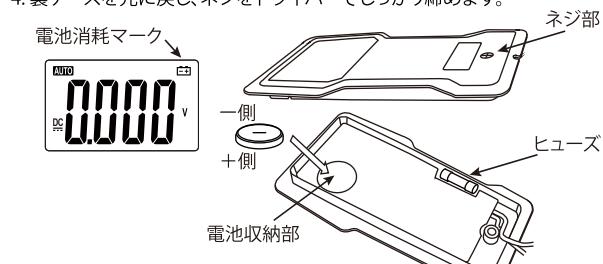


7. メンテナンス

7-1. 電池の交換

表示部に アイコンが点灯したら電池の残量が少ない合図です。
また、表示部に何も表示されない場合も、電池が本器を駆動するのに十分な電圧に達していないので電池の交換を行ってください。
本器を被測定物から外し、ファンクションダイヤルを OFF の位置に合わせて電源を切ってから電池の交換を行ってください。

- 裏ケースのネジをドライバーで外します。
- 裏ケースを外し、古い電池を外します。
- 新しい電池(CR2032)の極性を合わせて電池収納部に入れます。
- 裏ケースを元に戻し、ネジをドライバーでしっかりと締めます。



7-2. ヒューズ交換

電流測定が行えない場合には、過電流保護ヒューズが溶断していないか確認をしてください。
溶断している場合は、必ず規定された定格ヒューズと交換してください。
ヒューズは「400mA/250V、φ5.2 × 20 mm」のヒューズを使用しています。

7-3. 日常のお手入れ

本器に付着した汚れは乾いた柔らかい布で拭き取ってください。汚れがひどい時は、薄い中性洗剤溶液を浸し、固く絞った柔らかい布で拭き、その後乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
研磨剤やアルコール、シンナー、ベンジンなどの揮発性溶液は表面仕上げを傷めたり、機能の低下や故障の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

7-4. 校正

正確な測定を行うため、定期的に校正機関で校正を行うことをお薦めします。
校正推奨期間は、年 1 回です。
費用と納期については、販売店様へ見積もり依頼してください。

8. 保管方法

使用後は、ファンクションダイヤルを OFF の位置に合わせて保管することをお勧めします。
OFF以外の位置で保管すると、内蔵の電池を消耗することがあります。